



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

指定特定相談支援事業、 「さくらそう」が始まります

昨年4月、障害者総合支援法がスタートしました。今まで制度の谷間とされていた発達障がい児者や難病等により一定の障がいがある人についても対象となりました。

日光市の指定を受け、5月1日から「指定特定相談支援事業、さくらそう」の事業が始まります。

事業の内容は以下のとおりです。

- ・障がい福祉サービスの申請前の相談
- ・申請をするときの支援
- ・サービス等利用計画の作成
- ・サービス事業者との連絡調整

相談支援専門員の資格を持つ西尾および栗原が担当します。近年、手帳取得をしていない方の相談が増えています。「なんとなくのにお」のこれまでの経験を生かし、障がい者福祉サービス等の説明を丁寧に行い、本人や家族の納得を得ながら、先々の将来に向けて、よりよく進められるよう話し合いに努めていこうと思います。

同時に、日光市からの委託により、「日光市障がい者相談支援センター」に栗原が出向し、日光市生活福祉課障がい福祉係（市役所本庁舎1階）に8時30分～17時15分の間、月曜日から金曜日まで勤務します。そのため、「さくらそう」でのサービス等利用計画書の作成は状況を見ながら、少しずつ、始めていく計画です。

栗原の出向先、「日光市障がい者相談支援センター」は、障がいのあるかたやその家族などから、福祉に関する



さまざまな相談に応じ、必要な情報の提供や助言、障がい福祉サービスなどの利用支援を行うとともに、関係機関との連絡調整を行い、地域における生活を支援し、自立、社会参加を促進する窓口です。

家庭訪問、窓口相談のほか、電話による相談は、24時間受け付けています。（電話番号：090-2729-7079）

（栗原）

子育て・親育ち勉強会（第10回） 開催

3月15日（土）、市教委・中央公民館・和室にて、市教委・発達相談員（臨床心理士）の帷子先生をお招きし、「子育て・親育ち勉強会」を開催しました。

今回の勉強会は、事例を基に、グループに分かれて対応策を検討する、という内容でした。『困っていること』が多くの子に共通する内容だったので、参加者が具体的に真剣に考える姿が印象的でした。私たちのような支援する団体にとっても、大いに役立つ内容でした。

次ページにアンケートのまとめを掲載します。

目次

「さくらそう」始動	1
勉強会（第10回）開催	2
測って守る（放射能測定）	2
茶話会 in 鹿沼	3
活動日誌	3
こんな本はいかが・24	4

居場所のひとこま

プリン作りをしました。卵、牛乳、砂糖などを混ぜて、電子レンジでチン！するだけという、簡単な調理！のはずでしたが、ミルクセーキのようなかんじになってしまったり、電子レンジの中をよくみていないと、中身があふれてしまったり...。（N）



「勉強会」アンケートまとめ

7名の方から回答をいただきました。

1. 勉強会を何で知ったか。

①知人・友人:2名、②チラシ:5名

2. 印象に残った点や感想など

- ▼少人数での勉強会なので、意見交換ができて、とても勉強になった。発達障害や不登校についての具体的な対応のお話が聞けたので、うちの子供にもなにかできるかなと希望が持てた。(実践できる内容でためになった。)
- ▼厳しさと支援の両立についての話がとても役にたった。
- ▼周りが気付いてあげることが大切ということが印象に残った。
- ▼事例研究ができたことが大変よかった。具体的にお子さんにされていることが聞けてよかった。
- ▼約束を守れたときは、認めて、ほめてあげてくれることを忘れ

ずにしたい。声を大きくするばかりではなく、子供とも約束を作り、話し合いたいと思う。

- ▼障害があっても、本人に考えさせる、気付かせることの大切さがよくわかった。支援と厳しくすることの大切さ、と同時に難しさも感じた。

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいか。

- ▼中学生から高校生くらいまでの思春期の子供の対応の仕方について
- ▼お子さんを成長させるには、家庭と学校で連携することが大事だと思うので、もっと多くの方に参加してほしい。
- ▼先生のお話と発達障害の子をもつ親の悩みを両方聞きたい。こんなときこうしたらよくなった、など・・・
- ▼今日は今までと違う感じで面白かった。次回は、不登校や学習支援の具体的な対策について知りたい。
- ▼不登校について

(レポート・アンケートまとめ:白井)

「測って守る」サイエンス・カフェ44/3月22日(土)

市民活動支援センター会議室に8名が参加。福島原発爆発直後の放射性ヨウ素はどれくらい飛んできたのか、地表にどれほどの放射能があるのか、春の山菜はどれくらい汚染されているのか、などの疑問が投げかけられ、熱心な議論が交わされました。

作業グループ「なんにわ環境研究班」は、昨年度、日光市に対し以下の活動を行う市民参加型の調査研究機関またはシンクタンクの設置を提言しています。(1)放射能の動きを監視するための、継続的な空間線量測定および土壌放射能測定への市民参加 (2)日光市での測定器の管理、測定精度の向上などを目的とした、高性能放射能測定器をもつ宇都宮大学など他機関との連携 (3)一般向けの放射能・放射線に関する市民講座や教育機関との連携、放射能、放射線測定の教材化

地域に密着した測定により、放射能の動きを実感することができます。放射能を「わからないもの」とむやみに恐れるのではなく、測定結果を自分の目で確かめ、納得しながら対応していくことが大切です。情報をわかりやすい形で市民に伝えていくことは、放射能被ばくを可能な限り減らしていくことに役立つのではと思います。

4月から、環境研究班が試料を集め、市役所環境課の放射能測定器で土壌などの放射線を測定する体制が整いました。土壌採取法は共通化しておく必要がありますので、右に提案した方法でお願いしています。3/22版では7点採取でしたが、9点に増やしました。U8容器、ビニル袋などはお渡しできます。測定に興味をお持ちの方はメールまたは電話でお知らせください。

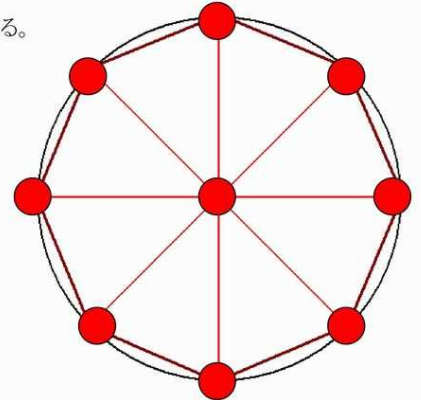
(なんにわ環境研究班:三上、手塚)

放射能測定のための土壌採取法 (NPOなんとなくのひろば・環境研究班 2014/4/21版)

【1】

対象とする地点(中心点)および1メートルほど離れた周辺の8地点にU8容器を押し込み採取する。表面からおよそ5cmの土壌を9点取ることになる。全部をビニル袋に入れ、よく混合する。(以上の採取法を標準とする)

もし、家庭菜園などの参考値として用いる場合は15cm程度の深さまで数カ所採取するのがよい。



【2】

土壌試料を新聞紙や段ボール箱に広げ、天日で乾燥し、ビニル袋(#14)に詰める。袋の空気はしぼり抜き、輪ゴム等で密閉し、その外から2枚目のビニル袋に入れ保管する。

【3】

以下のタグに記入して容器に保管。「環境研究班」でまとめて日光市環境課に測定を依頼する。

放射能測定試料	番号
採取日	年 月 日
採取者	今市一郎 連絡先
品名/形状	土壌
採取場所	日光市大沢 山林
重量(g)	400 備考 (干葉 U8容器×7が適)
容積(立方cm)	500 U8で採取した場合はここに○を付ける。周辺の状態で気づいたことがあれば記入する。
密度(g/立方cm)	ウラボ生育地...など 自然状態(どちらかに○) 土壌の場合: 田畑

【4】

衣類等に付着した土を払い落とす。作業終了後は手洗いやうがいを忘れずに行う。

- 2月 5日 (水) 通信・なんとなくのひろば (第34号) 発行
- 2月10日 (月) 茶話会 (第45回)
- 3月10日 (月) 茶話会 (第46回) CCVロハスカフェ、絵本セラピー)
- 3月12日 (水) 第58回 理事会
- 3月15日 (土) 「勉強会」ん、うちの子ちょっと心配と思ったら (小中学校編)
- 3月22日 (土) サイエンスカフェ44「測って守る」
- 3月22日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会 (反省会)
- 3月23日 (日) ベリー会：月例会
- 3月31日 (月) 定款変更認証
(4ページ「私たちの事業」に⑧が加わりました)
- 4月14日 (月) 茶話会 (第47回)
- 4月16日 (水) 「子どもの居場所」ジャガイモ植え付け (右写真)
居場所のすぐそば、大家さんの畑にジャガイモを植えました。



茶話会 in 鹿沼

3月10日(月)の茶話会は外に出てランチをしてみることにしました。

行先は、なににわとかねてからお付き合いのあるNPO法人CCVが開いているロハスカフェ。

参加人数はインフルエンザの影響などもあり3人と少な目でしたが、当日CCVでも茶話会が開かれていて交流したり、絵本セラピーの会が開かれて参加させていただいたりで出会いのある充実したランチになりました。

カフェは木目を生かした自然で温かみのある雰囲気、月曜日は酵素玄米&マクロビメニューでした。野菜を中心にした料理で体に優しくおなか一杯になり、飲み物のお替わり自由はおしゃべり好きには最高です！！

絵本セラピーには初めて参加しましたが、絵本に合わせて、大人になるとなかなか言えないNOという言葉「いややー」を声に出しただけなのに、なんという爽快感なのでしょう。今、自分にとって何がいやなのかを聞いてくれたこともよかったのだと思います。貴重な体験をさせてもらいました。

また、美味しい交流会をやりたいです。

(西尾)

CCVロハスカフェ ブログ

<http://ameblo.jp/ccv-lohascafe/>

報徳振興会館解体終わる

報徳会館の解体がすすみ、すっかり更地となりました。一部の桜は切らずに残るそうです。(右写真 4/12) 解体中、大広間床下の土を採取しました。もともとの土の状態がどうなっていたのか不明なので、表面数センチメートルをスコップですくい、小さな段ボール箱に入れました。放射エネルギーを確認したかったのです。結果は、セシウム134:不検出 137:13.4 Bq/kg。1955年以前、原水爆実験時代に降った放射能のみが含まれる貴重な土です。(T)



子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所 (日光市平ヶ崎)

日時: 毎月第2月曜日 (午前10時~12時)

参加費: 300円 (お茶代)

次回の日程はお問い合わせ下さい。

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(連絡先: 090-3227-7079)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
http://www.nantonakuno.net/



こんな本はいかが？ その 24

ナボコフの文学講義（上下2巻）河出文庫

小説の読み方が変わる。この本に導かれ、去年は
ジェイン・オースティン「マンスフィールド・パーク」
チャールズ・ディケンズ「荒涼館」
ギュスターヴ・フローベル「ボヴァリー夫人」などを読んでしまった。

ペテルブルクに生まれ、革命によりヨーロッパに亡命、アメリカに移住して大作家となったウラジーミル・ナボコフ。代表作「ロリータ」も読んだことがなかったのだが、この「文学講義」数ページを本屋で立ち読みして興味を持ち、まずは、まな板に並んだ小説をナボコフのガイドで読んでみようという気になった。

「小説はおとぎ話」というナボコフは小説の細部、その細部と全体との関わりの分析に異様な執着を見せる。「作者の意図を読み取る」などという馬鹿なことを考えながら小説を読んではいけない。おとぎ話を人生の問題に応用しようなどと考えるはいけない。読者は自らの想像力を駆使し、作者とともに芸術を創り出す喜びを、心臓で、そして背筋で感じるのが最高の小説経験なのだと言ナボコフ先生は言う。

ともかく上巻の解説にある3つの小説に取り組む。なるほど、こういうふうを読むのかと納得できるところが多数。探偵小説のように精密な地図を描き、「マンスフィールド荘園」の建物の位置と人物の動きを作り上げる。「背筋のぞくぞくする感覚で」読めたかは怪しいけれど、読み方が変わったような気がする。

その勢いで、今年になって「ロリータ」（新潮文庫、若島正訳）を手にとった。ナボコフが英語で執筆、世界的ベストセラーになったお話である。コメディの体裁を取りつつ、複雑な構成が幾重にも折りたたまれ、謎の多い話で、私の記憶力と想像力が及ばない。いちど読んだだけでは「心臓で感じる」レベルにはなりそうにもなく、別の訳者による文庫本かペンギン文庫での再読リストに入れておくことにした。

さて、文学講義・下巻はマルセル・プルーストやジェイムズ・ジョイスの作品である。これまた気楽にスタートできる作品ではないけれど、ナボコフ先生の案内で読み進めることができるだろうか。（手塚）

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：46
賛助会員：19
団体会員：4
入会金はありません。

年会費（一口）
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



なんとなくのへや

この頃のマスコミ報道、手品を見せられているような気がしてならない。生物学の論文に不正があっても、誰かの作ったオーケストラ曲が代作でも、私たちの生活に大きな支障があるわけではないし、政府予算が無駄になっているわけではない。

右手で演じられるマジックに目がいくけれど、経済に大きな影響を与えそうな貿易交渉や政治の情報は、ポケットに入れた左手の中にある■薬効があるようにデータが操作されたという薬剤臨床研究疑惑、行き詰まりが見えているのに膨大な開発予算がつかまれている核燃料サイクルなど、科学的な正当性の追求が必要で、より重要なテーマが報道の陰に隠れている■新聞・雑誌に対する国民の信頼度の調査に、日本：72.5%、アメリカ：23.1%、イギリス：13.4%という統計がある。この国のマスコミはたいへん信頼されているという結果だ■新聞やテレビが宣伝すれば嘘も本当になるかもしれないと政府も頼り、「政府の向いた方向に報道する」と公言する人を放送局の会長に選んだのだろうか。それとも、マスコミ信頼度を欧米並みに引き下げたいという、なにかの陰謀なのだろうか。間違った報道は論外だが、どのニュースを選択し、どこに重点を置いているかにも注目して報道を眺めると、あたらしい発見があると思う。（T）